

小規模企業景気動向調査

[2021年10月期調査]

～全業種で大幅な回復も、需要の回復や仕入れ価格高騰など、不安の残る小規模企業景況～

2021年11月30日
全国商工会連合会

<調査概要>

調査対象：全国約300商工会の経営指導員

調査時点：2021年10月末

調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

<産業全体> ◇…全業種で大幅な回復も、需要の回復や仕入れ価格高騰など、不安の残る小規模企業景況…◇

10月期の小規模企業の業況DIは、売上額・業況DIが10ptを超える改善となり、採算・資金繰りDIも大幅改善となった。情報連絡員からは緊急事態宣言が全面解除となったことで、少しずつ経済が動き始めているといったものや感染状況が改善し、徐々に活気が戻ることを期待する声が多くあった。一方で、原油価格高騰や最低賃金の引上げによる、採算の悪化に苦慮する事業者も少なくないとの報告もあった。今後は、コロナ関連融資等の据置期間が終了し、資金繰りに苦しむ事業者への支援が最優先となるという声も目立った。

<製造業> ◇…大幅な回復に転じるも、原材料価格の高騰により、採算・資金繰りに苦しむ製造業…◇

製造業は、売上額DIが前月比19.7ptとなったのをはじめ、全DIで大幅な改善となった。食料品関連は、緊急事態宣言全面解除により、少しずつ持ち直しの動きがみられるが、原材料価格の上昇により、採算が悪化しつつあるため、価格転嫁にも対応する必要がある。繊維関連は、受注は回復傾向も、外注・取引先の廃業等により、コロナ禍前に戻ることが難しい状況にあるとの声もあった。機械・金属関連では、コロナ禍前と比較すると受注は減退しているが、前年同月と比較すると回復傾向にあるとのコメントも見られた。

<建設業> ◇…受注は上向きも、ウッドショックを始め資材高騰影響に苦しむ建設業…◇

建設業は、売上額DIは10ptを超える大幅改善となり、それ以外は小幅な改善となった。情報連絡員からは、災害復旧関連工事やリフォーム・土木工事など幅広い分野で受注は確保できているが、ウッドショックなど建設資材の入手難・価格高騰をはじめ、熟練作業員の確保など課題は多く、業況・採算・資金繰りが厳しいとのコメントが目立った。加えて、原油価格高騰により、重機等の燃料経費が大幅に上昇し、採算・資金繰りの悪化に拍車をかけているとのコメントが目立った。

<小売業> ◇…大幅な回復も、仕入れ価格の上昇や需要の低迷で、厳しい状況が続く小売業…◇

小売業は、売上額・業況DIは10ptを超える大幅な改善となった。採算・資金繰りDIも大幅な改善となった。食料品小売業関連は感染状況が落ち着き、客足も戻りつつあるが、飲食店向けはまだまだ厳しく、更に、野菜等の高騰もあり、全体的にやや悪化傾向にある。また、昨今の原油高騰で、燃料販売業の事業者は、仕入れ価格も週単位で大幅に上昇しており、資金繰りに関する相談も目立っているというコメントが見られた。衣料品関係は、回復基調にあるが、一昨年に比べると、大幅に落ち込んでいるという声が目立った。

<サービス業> ◇…大幅な需要回復も、仕入れ価格高騰に苦慮するサービス業…◇

サービス業は、全DIが10pt以上の回復に転じ、特に売上額DIは29.0pt改善し、2018年のコロナ前の水準になった。宿泊関連は、緊急事態宣言の解除もあり、予約が急増し、コロナ禍前の水準には戻らないが、回復基調を実感しているとの声があった。また、GoTo事業の再開や経済対策といった追い風に期待する声も多くあった。洗濯関連は、原油価格の上昇で輸送費がかさむなど一部サービスの値上げを余儀なくされ、イベント中止の影響もあり、伸び悩んでいる。理美容関連は、行事の増加などで売上は増加傾向だが、来店頻度が戻ってこないとのコメントがあった。

業種	産業全体			製造業			建設業		
	9月	10月	前月比	9月	10月	前月比	9月	10月	前月比
売上額	▲ 33.7	▲ 14.8	18.9	▲ 31.4	▲ 11.7	19.7	▲ 21.6	▲ 9.6	12.0
採算	▲ 41.3	▲ 34.3	7.0	▲ 43.0	▲ 36.4	6.6	▲ 39.3	▲ 36.1	3.2
資金繰り	▲ 38.0	▲ 30.3	7.7	▲ 39.8	▲ 32.2	7.6	▲ 33.0	▲ 30.7	2.3
業況	▲ 39.3	▲ 27.9	11.4	▲ 38.4	▲ 28.8	9.6	▲ 30.9	▲ 27.0	3.9

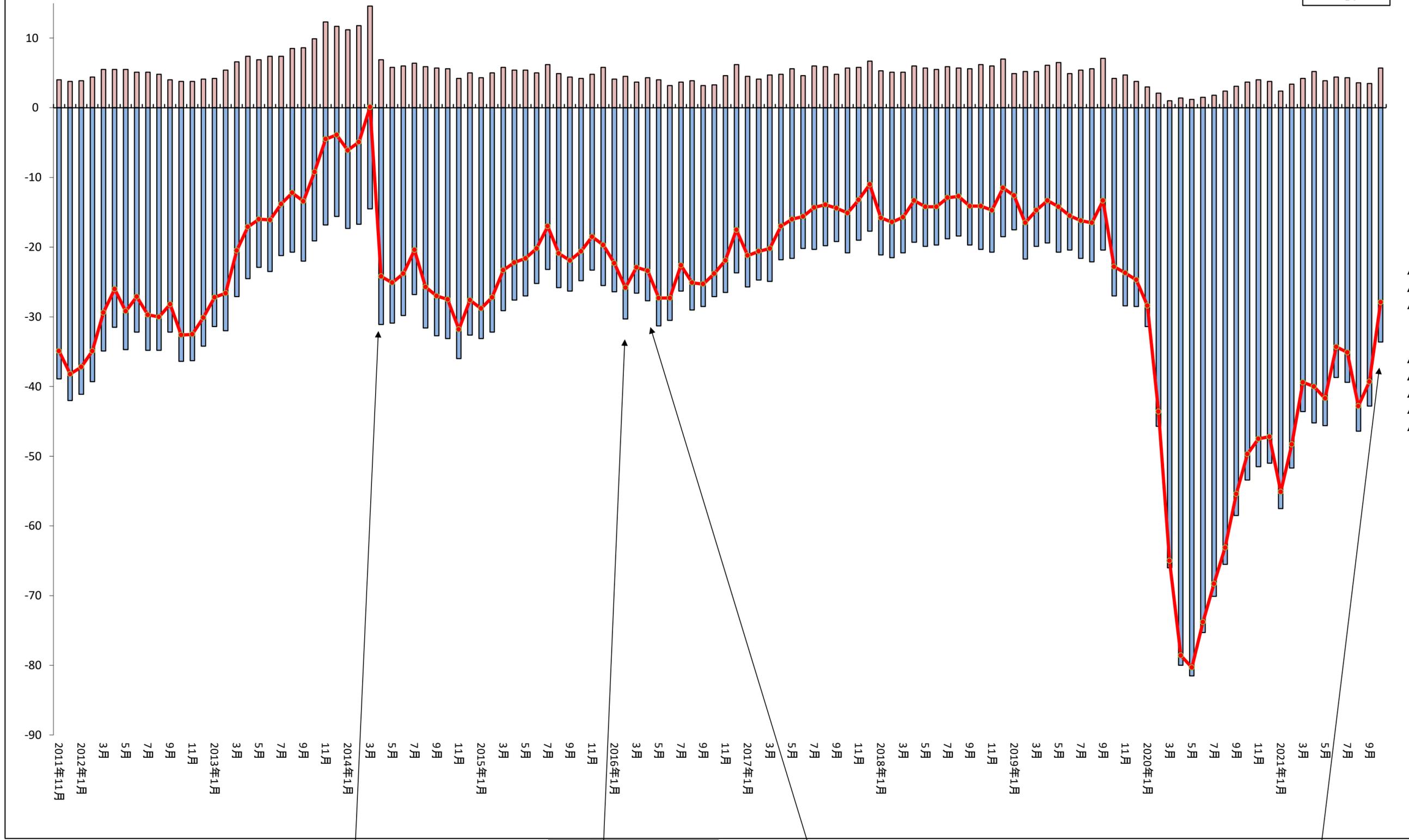
業種	小売業			サービス業		
	9月	10月	前月比	9月	10月	前月比
売上額	▲ 35.6	▲ 20.9	14.7	▲ 46.1	▲ 17.1	29.0
採算	▲ 38.4	▲ 33.3	5.1	▲ 44.5	▲ 31.6	12.9
資金繰り	▲ 37.3	▲ 29.6	7.7	▲ 41.7	▲ 28.4	13.3
業況	▲ 42.4	▲ 29.3	13.1	▲ 45.5	▲ 26.5	19.0

注) DI (景気動向指数) は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査(月次)

産業全体の業況…過去10年のトレンド…

悪化
好転
DI



14年4月
消費税率8%に引上げ
(-24.2)

16年2月16日
日銀マイナス金利導入
(-25.8)

16年4月
熊本地震(-23.4)

21年10月
(-27.9)

小規模企業景気動向調査(10月期)における商工会経営指導員の主なコメント

* コメントについては、経営指導員回答の原文を掲載。

1. 景気全般

＜改善傾向を示すコメント＞

当町においては、漁業の好調により改善がみられる。また、9月にコロナウイルス感染症による緊急事態宣言が解除となったことが大きく影響している。

(枝幸町商工会)

緊急事態宣言が解除され、県の警戒レベルも2へ引き下げられたことから、徐々に回復してきている。全業種も原油価格の高騰からの灯油代、ガソリン代等の経費が増加し、利益の低下を懸念している。

(白神八峰商工会)

9月末で4度目の緊急事態宣言が全面解除されたことに伴い、個人消費は、感染対策を徹底するなかで、強くないが、持ち直し傾向となった。10月度の市内経済は、個人向けサービス業を中心に弱いものの、消費活動が再開された感じが見受けられた。先行き感も、月下旬には長く続いていた飲食店への時短要請も解除され、消費マインドの改善が、しばらく上向きになると考える事業者も多く見られた。一方、製造業では、半導体不足や原材料価格高騰の影響で、生産活動は減速気味となっている事業者が多い。半導体・そのた輸入部品の供給制約から、自動車や機械製造関連などが落ち込みとなった。

(川西市商工会)

全国的な緊急事態宣言やまん延防止措置の解除などを受け入込客が大幅に増加しており、かかわりの大きい業種について売上が伸びている。しかし、今後の感染症の動向も見通せない中、資金繰り等慎重に検討している事業所も多くみられ、融資の申し込みが後を絶たない状況である。

(あまみ商工会)

コロナ感染者が減少し、徐々に人流が回復してきている。しかし、消費者の生活様式は確実に変化しており、時代の変化に合わせた設備投資、販路開拓など、行動を起こしていかなければおいていかれると感じた。

(佐伯市番匠商工会)

＜悪化傾向を示すコメント＞

昨今の原油高騰で、ガソリン・灯油はじめ燃料販売業者より、仕入価格も週単位で大幅に上昇し、売上の割合が大きい掛売が入金が2ヶ月程かかり、また仕入業者には翌月早々に支払わなければならないなど、緊急の資金繰り相談も目立ってきた。また、小売業者・飲食業者等もサラダ油などの価格上昇、また灯油・電気・ガス等の光熱費も今秋の値上により、コロナの影響も改善されない中厳しい経営に直面しており、当方でも注視していきたい。

(青森市浪岡商工会)

全体として、建設業・自動車関連の業種は売上の減少はあまり見られず、それ以外の小売業・サービス業の売上低下が大きい印象である。

(栗原南部商工会)

新型コロナウイルス感染者数の激減により人流が増加しており全業種において回復感が感じられるが、原油価格の高騰、原料の値上がり感もあり採算性が不安視される。

(矢吹町商工会)

緊急事態宣言が解除となり、先月までに比べて回復傾向にはなりつつあるものの、原油高や仕入れ高の高騰は様々な業種に影響を与え、波及してその他にも広く影響を及ぼしている。今後もこの傾向が続くことが予測されるため、引き続き厳しい状況は続くと思われる。飲食店では、今年に入り、時短営業や休業の繰り返しとなっており、特に家族経営のお店などでは、体力的にもすぐに通常営業に戻すのがつらいといった声が多く聞かれた。

(栄町商工会)

新型コロナウイルス感染症が収まりだし、人通りも少しずつ増えてきた。売上も仕入れも先月より増加しているが、採算や資金繰りが回復の目途が立っていない。

(吉崎市商工会)

2. 製造業

<改善傾向を示すコメント>

町内製造業は取扱品目に関わらず受注が好調で売上は高水準を維持。業況は上向きで工場稼働率も高く、人手不足の傾向が強い。一方で、原油高による影響から仕入コスト、流通コストが上昇。11月以降、各種値上げに対して適切に価格転嫁ができるかが今後の業績にも関わる。

(茂木町商工会)

<食料品>依然として原料費が高騰しているものの、採算は思うほど悪化していない。<繊維工業>アパレル(一般衣料)関連及び工業繊維ともに、コロナの影響を受ける前に戻りつつある。<機械・金属>世界的な銅需要により、その関連企業を含め、業況は好転している。

(射水市商工会)

食料品製造業では、原材料価格上昇により、利益幅を圧迫している。繊維工業は、受注状況は回復傾向にあるが、取引先で事業廃止している取引先もあり、新型コロナウイルス発生前に戻りきるのは難しい現状。機械金属製造業では、前年同月では新型コロナウイルスの影響を受け受注が減退していたが、その時と比較して回復傾向にある。しかし、新型コロナウイルス発生前の水準には戻っておらず、今後は原材料価格上昇による影響が懸念される。

(米子日吉津商工会)

緊急事態宣言が解除されたため、飲食店向けの売上が徐々に増加している。

(西原町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

食料品製造業関連の事業者は長期化した新型コロナウイルス感染症の影響から売り上げが減少している。機械金属製造業関連の事業者は原油価格高騰の影響から仕入れ価格がやや上昇し資金繰りがやや悪化した。

(新ひだか町商工会)

食料品…新型コロナの感染が一服してきたこともあり、卸売上が回復しつつある。コロナ禍で直販チャネルの拡大に努めてきたこともあり、一層の売上拡大に期待。一方で、原油価格が食材や燃料調達にダイレクトに影響を受ける業態のため、収益を圧迫している。繊維工業…生産品目が特殊なため、景気影響を受けづらく、当初計画通りとなっている。主力のアウトドア向け商品はキャンプブームによって、好調が続いている。機械・金属…前月に続き多忙である。材料費等は価格上昇しているものの、今後もしばらくは受注が安定していくことが想定される。

(由利本荘市商工会)

食料品製造業者、機械金属製造業者関連の事業者は、原材料の仕入れが全体的に上昇しており、川上への交渉や川下への転嫁が難しいため採算の悪化に繋がっている。

(幸手市商工会)

繊維昨年来、新型コロナの影響により景況は悪化の一途であったが一時的に持ち直しの時期にあった。しかしながら10月は昨年と同様かなり落ち込んでいる。自動車部品はサプライチェーン文壇、半導体不足により業況回復見込めず。建機油圧部品はアメリカ向け輸出が伸び好調。建材部品は横ばい継続。その他部品の樹町もあり総じて売上前年並み、仕入単価は材料価格大幅上昇で今後更なる上昇が予想され収益圧迫要因となり価格に転嫁反映できず悪化が予想される。

(小矢部市商工会 津沢支所)

食料品: 観光関連は少しずつ回復の兆しがあり。イベント関連の開催も何件か決まり今後期待したい。繊維工業: 9月実施した商品開発等を行うためクラウドファンディングが功を奏し多くの支援を獲得した。新聞に記事掲載されたこともあり、新たな大口の受注も入ってきた。景況は上向き傾向にあるが、資金繰りが必要となる。また、神社などからの引き合いもあった。機械金属: 依然として好調である。新型コロナウイルス感染症の影響による半導体の不足など、部品等の納期が今後不安

(みまさか商工会)

縫製業に関しては、景気の低迷、不要不急の支出控えの影響から受注減少の状態が続いている。機械金属製造業に関しては、昨年と比較し自動車関連を中心に受注が戻り始めている。しかし、アジア等からの部品調達の遅れが非常に気になる状況。

(東温市商工会)

3. 建設業

<改善傾向を示すコメント>

仕入単価は年度後半に入り発注工事量が多い分、資材製品の生産ラインが忙しさを増しているのと、製品不足等の状況から上昇している。また業況は繁忙期に入っていることもあり、やや好転の時期にきている。公共工事は久々の県工事受注により増加傾向に転じている。

(由利本荘市商工会)

建築関連の事業者は、引き続き原材料価格は高騰しているものの、受注状況は前年同月比で好転しており、業況もやや好転している。建築板金事業者も引き続き、業況は好調だが、金属など仕入単価の上昇が懸念事項となっている。

(米子日吉津商工会)

補正予算成立による8月豪雨の修繕工事が始まりつつあり、土木工事を中心に着工数が増えている。一方で木築等の建物建設工事は昨年同様鈍い印象

(安芸高田市商工会)

原材料の高騰により、採算面はよろしくないようである。ただし、建設業全般的には、受注が多く、お断りせざるを得ない案件もあるということを知っている。

(糸島市商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

建設業については、昨年同様の売上であるが、ガソリンの高騰により外注費等が上昇している。

(栗原南部商工会)

建設業については、材料の高騰が続き、売上に結び付けられない事業者も中にはいるようである。材料が高騰して、売上也下がっているため、今後資金繰りが課題になってくると思われる。

(鹿島商工会)

コロナが少し落ち着いてきていることから受注は徐々に回復傾向にあるが、資材等の仕入単価は依然高く、採算が取れるまでには至っていない状況である。

(高萩市商工会)

昨年対比では回復基調にありますが、ウッドショックや海外工場の休止に伴う什器在庫の不足などの影響が非常に大きく、仕入難や仕入単価の上昇に伴い、工事受注数の低下に繋がっています。在宅時間の長期化に伴い、住宅リフォームの需要は高まっていますが、工期遅延や工事価格の上昇などの影響により契約に至らないケースが見受けられます。

(寺泊町商工会)

土木関係は、引き続き台風復旧関係等の公共工事が多く好調。人手不足もありどの業者も公共工事は手いっぱいであり、春先まで新規受注が受けられない状態。建築関係は受注は確保されているが、ウッドショックや世界的な半導体不足による資材の納入遅れなどにより、工期遅れや仕入れ価格高騰が続いている。今後も不透明な状況。

(佐久市望月商工会)

建設業: 受注は確保できているが、材料をはじめ諸経費が上昇しており、経営状況はやや悪化している。木材だけでなく鉄材やガラス、その他の資材も軒並み高騰しているため、価格に反映せざるを得ない状況。春先から引き続きウッドショックに木材の高騰。さらに、鋼材や合板の仕入値も上昇してきた。そのため、建築費用が1.3~1.5倍まで上昇し、工事納期が遅れている。

(甲賀市商工会)

建設業については、新型コロナウイルス感染症の感染者が減少傾向にあることから、業況の改善が見られる。しかしながら、原油価格の高騰によって、移動が多い一人親方などの建設業の事業者は大きな打撃を受けている。

(西そのぎ商工会 長与支所)

4. 小売業

<改善傾向を示すコメント>

先月に食品関連小売業が好調であるが、緊急事態宣言、蔓延防止措置解除後、徐々に小売店にも客足が戻りつつあり、明るい兆しが見え始めている。

(本吉唐桑商工会)

食品小売業は、未だ外食を自粛している傾向があり、巣籠り需要が継続している為、好調をキープしている。その他の景況は芳しくない傾向にある。今後は、様々な制約が解除されてきているので、好調に転じることを期待したい。

(檜葉町商工会)

緊急事態宣言等が解除され、ワクチン接種の普及とともに人出が増加、小売一般で個人消費の景況感が改善傾向。

(射水市商工会)

酒小売業: 昨年が悪すぎたので、少し増加したことになる。飲食店への販売はまだ少ない。お客様は戻ってきていない様子。食料品小売業: 自治体実施の消費喚起事業(地域内で使用できるクーポン券の配布)のおかげで売り上げは好調に推移している。自動車販売業: 部品の入手難や工場の稼働停止などによる各社減産の影響で納車時期が伸びており、需要に対応できていない状態。食料品スーパー: 甲賀市地域経済応援クーポン券のお陰で前年同月比130%以上売上増加。1000円ごとに使える商品券のため、客単価の増加にも繋がっている。また、来店客数も増加している。

(甲賀市商工会)

全国的な緊急事態宣言等の解除に伴い、観光客等の交流人口が大幅に増加し、それに伴う衣料品、食料品等の小売りが増えている。しかし、原材料の高騰に伴う仕入単価も増加傾向にあり、採算性について大きな改善はみられていない。

(あまみ商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

新型コロナ感染者が減少して移動自粛も解除となり先月より売り上げは上がっているが、昨年比ではほぼ横ばいであり、今後の感染拡大や各支援事業等により売り上げは変わる恐れがある。

(北塩原村商工会)

衣料品関連の事業所は、県の補助金活用した商店街独自の商品券を使ったお客様が先月は多く、売上も若干増加。緊急事態宣言解除され地域のイベント、旅行に出かける人が余所行き用の服を購入することを期待。食料品関連の事業所は、業務用銘柄を中心に米価格が大幅に低下し、仕入れ値・販売価格ともに大きく下げた。一方で来期の生産資材は燃油・運賃の高騰や中国の輸出制限の影響で大幅な値上がりが見込まれている。耐久消費財関連の事業所は、商店街独自の商品券を使って購入するお客様が多く、売上が増加した。時計、眼鏡販売業に関しての業況は変わっていない。

(かづの商工会)

仕入単価や公共料金が高騰しても価格転嫁できず、採算性が低下し厳しい状況の食品製造小売業の事業所があった。特に小さいお店は右肩下がりの状況が続いている。

(よこて市商工会)

・コロナ感染者数が減少し、客足が戻ると見込んでいたが、未だ鈍く、業況としては厳しいものがある。仕入原価も秋冬物の値上げ見込まれ、売りにくい状況が続く。・少しずつ人の動きが出てきており、来店数は増加傾向。仕入業者の減少により納品、商品の品揃えに影響が出てきている。・半導体不足から部品が入荷せず、納期が未確定となっているため新車販売が減少しており、その反面、中古車売上は増加している。

(中部商工会産業支援センター)

衣料品小売業については引き続き厳しい業況にある。食料品小売については売上額自体は好調であるが、ガソリン代の高騰、材料費等の高騰等を販売価格へ転嫁できていない状況にある。

(玖珠町商工会)

5. サービス業

<改善傾向を示すコメント>

宿泊業は、前月に続き工事関係者の利用により前年比プラス。洗濯業は変化無し。理美容も、当地域の感染者がごく少数で済んだことから通常に戻った。

(小平町商工会)

コロナ感染者数の減少に伴うまん延防止措置の解除などにより消費者が戻りつつある期待感がある、年明けの第6波感染拡大に不安が残るが回復傾向になっている。

(矢吹町商工会)

サービス業では、小売業同様に、個人向けサービス関連を中心に、強くはないが、持ち直しの動きの兆しがみられている。特に10月下旬には長く続いていた飲食店への時短要請も解除され、消費行動が活発になることへの期待感が大きい。

(川西市商工会)

観光・宿泊・飲食関連業者は、緊急事態宣言解除、新規感染者数の激減、新内閣発足といった明るい環境変化となっており、GOTO事業の再開や新たな経済対策に期待している。

(山北町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

宿泊業関連の事業者は新型コロナウイルス感染拡大が縮小したことにより、今後の売上回復に期待を寄せるも、前年同月比では大きな増減はなかった。洗濯業関連の事業者は原油価格高騰の影響から資金繰りがやや悪化し、前年同月比の売上は新型コロナウイルス感染症の影響があるものの大きな増減はなかった。理美容業関連の事業者は新型コロナウイルス感染症の影響があるものの前年同月比の売上は大きな増減はなかった。

(新ひだか町商工会)

旅館…昨年はGOTOキャンペーンや県・市の様々な補助で売上が上がったため前期と比べると落ち込んでいたものの、全体としては週末を中心に宿泊客は多かった。平日は若干少ない日も多々あり昨年並みにはほど遠かった。洗濯…原材料価格の上昇により一部サービスは値上げ。グループ全体で見ると、商品券の効果もある程度あり、現在は個人客の売上が主。今後の行事関連需要の回復に期待。理・美容…前年同月と比べると売上の変化は特にない。仕入単価の上昇がわずではあるが感じている。燃料費・光熱費の値上がりも今後の経営に影響が出てきそうで心配である。

(由利本荘市商工会)

旅館関連の事業所は、宿泊について工事関連で複数名の長期宿泊があったため、来月前半までの満室営業が見込まれる。宴会は、コロナ感染者の減少により、徐々にではあるが企業・家族単位での利用が開始されつつある。洗濯関連の事業所は、油と人件費の増加のため、資金繰りが厳しくなっている。理・美容関連の事業所は、顧客も近隣の方が多いため、緊急事態宣言解除の影響は小さい(変化がない)。お客さんでも旅行や県外への外出をしたりするような傾向はまだ見られない。通りを歩く人や夜の飲食の人出は徐々に増えてきているように感じる。

(かづの商工会)

料理旅館業は、まん延防止措置の解除と感染者の大幅減が後押しし、客足は戻りつつある。昨年同月比の2割増で推移しているが、コロナ禍前に比べると3~4割減が続いている。ほぼ日帰り利用者。洗濯業は、感染者の減少に伴い、若干の売上増となっているが、原油高が足を引っ張っている状況。布団などの大型洗濯や衣類以外のクリーニング需要が微増。理美容業は、客足は戻っているが、カットの間隔がコロナ前より伸びている。

(富山市八尾山田商工会)

旅館:緊急事態宣言も明け、本格的な行楽シーズンであるが、思った以上の回復の兆しはまだ見られない状況である。今後、全国的にGOTOのようなことがあれば、期待する面もある。洗濯:コロナの影響はほとんどなく、横ばい。理美容:10月は緊急事態宣言も解除され、客足が少しずつ戻ってきた感はある。引き続き、お客様に安心して来店いただけるよう、感染対策に留意し、接客対応していきたい。

(みまさか商工会)

宿泊関連業に関しては、緊急事態宣言明けの観光客増等により、前年同月比と比べて改善傾向にあるが引き続き資金繰りは厳しく注視が必要。洗濯業については、業況は右肩下がりである地域需要と供給のミスマッチ等も考えられる。理美容業については、顧客の来店サイクルが伸びている傾向にはあるものの、売上等に大きな影響はみられない。

(玖珠町商工会)